

a whaling ship 船 ほげい

基本理念
私達は心の
こもった医療を
行い、地域に信頼
される病院とな
ることを目指し
ます。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●先山正二／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

令和4年を迎えて

— オミクロン株に対して職員皆で協力して取り組みます —



NHO 高知病院 院長
先山 正二

令和4年寅年が始まりました。本年もよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス(SARS-Cov-2)との取組は3年目に入りました。この年末年始の高知県における新型コロナウイルス感染状況はかなり落ち着いていましたが、大方の予測通りに、オミクロン株の国内での急速な広がりが現実となってきました。この原稿を書いています松の内の時点では、高知県における新型コロナウイルス新規陽性者は1日4、5名で、数名のオミクロン株陽性者が確認されている段階です。しかし、この「ほげい船」が皆さんの手元に届く頃には、感染力がデルタ株の3～5倍とされているオミクロン株が主体となり、1日の療養者数が高知県での第5波のピーク時の744人を超えている可能性があります。オミクロン株はデルタ株と異なり、上気道が感染の主たる場で、肺炎を生じて重症化する割合は低いとされていますが、高齢者、合併症のある人、ワクチン未接種の方はこれまで通り注意が必要です。

オミクロン株の流行が先行してみられている沖縄県等の状況からは、医療従事者への感染や医療従事者が濃厚接触者となる可能性がこれまでになく高まっています。その結果、医療従事者における一時休職者の急増という、以前の流行とは異なった要因による医療機関でのマンパワー不足が大変危惧されます。実際に沖縄の複数の医療機関において、当該要因により外来の一般診療等の提供を

制限せざるを得ない状況が生じています。

沖縄、山口および広島県における今回の流行(いずれ“第6波”と言われると思いますが)の背景には、米軍基地の存在と、基地内と日本国内での初期の水際対策への認識の違いがあったわけですが、“郷に入れば、郷に従え”といったルールの通用しない現実はとても残念な限りです。

さて、当院は高知県の基準である病床確保フェーズ3の段階より新型コロナウイルス陽性患者の入院受入れを開始します(フェーズは0から5と緊急時に区分され、原則としてフェーズ2の時点での県内確保病床159床の利用率が20%を超えた時点でフェーズ3に切り替わります)。当院は県の要請に基づき、1月4日より受入病棟の準備を開始し、1月7日には新型コロナウイルス専用病棟での受入体制を完了しています。当院としては、従来の一般医療、セーフティーネット医療および結核医療を可能な限り維持しつつ、発熱外来や成人・小児への新型コロナワクチン接種事業なども含めた新型コロナ関連医療に、職員一同で知恵を絞り、協力して引き続き取り組んで行きます。

当院は国立病院機構の病院として、また、高知家の医療機関として、その使命と役割を果たして行きますので、改めまして本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

活性化推進委員会 活動について



庶務班長
丸尾 芳光

当院では、医療の質の向上と経営健全化のために、組織、職員個々が意識の改革と業務改善の実践により活性化することを目的として、活性化推進委員会を毎月開催しております。そして委員会の中では、待ち時間対策WG、掲示物改善WG、接遇向上WG、ボランティアWGと4つのワーキンググループがあり、それぞれ活動を行っております。今回ボランティアワーキンググループの活動についてご紹介いたします。

【ホスピタルアート】

★アーツプロジェクト代表である森 合音さんにご協力をお願いし、いろいろとご指導をいただきながらスタートしました。

手始めに1階北病棟前の壁に下書き開始です。

今後できるだけ多くの職員に協力してもらい、本格的にペイントしていく予定です。



【ことぶき公園】

★当院敷地内にある公園ですが、草や竹が茂って鬱蒼としていたため、多くの方々の協力を得て見晴らしをよくしました。患者さまにとって憩いの場となりますように。



刈り込み前



刈り込み後

【ピアノ演奏】

★クリスマス ミニ演奏会として、12月13日～12月24日まで、14時と15時の2回に分けて10分程度、毎日違う奏者がピアノ演奏を行いました。
ご興味を持っていただいた多くの患者さまにも聞いていただきました。



【ロゴマークペイント】

★当院附属看護学校の学生のみなさんに、すごくきれいにペイントしていただきました。完成した時は感動そのもので、学生さんたちには感謝です。



ペイント前



ペイント後

コロナ禍で不安やストレスが続く中、患者さまやご家族さま、それから職員のみなさん、できるだけ多くの方々に少しでも癒しの空間を提供できればうれしいです。当院が地域の方々や患者さま、そして職員にやさしく、環境にもやさしい病院であるためにいつもやさしい風が吹き続けることが大切であるという思いを込めて、今後も活動を続けてまいります。

診療科紹介(産科)



産科医長
滝川 稚也

産婦人科と聞くと一般的には“お産”のイメージがあるかと思われます。

実際には大きく二つに分かれ、妊娠を扱う部門を産科、妊娠以外の女性特有の疾患を扱う部門を婦人科と分類しています。病院によっては乳がん検診も産婦人科が担当する場合がありますが当院では乳腺外科という部門があり分担をしております。

当院は分娩を取り扱う産科だけではなく小児科と協力をしNICU(新生児集中治療室)を併設した周産期総合病院として高幡地域、高知県の西の要となっております。高知県は他の地方自治体と同様に少数精鋭の産婦人科医・小児科医によって、クリニック、高次の高知大学病院・高知医療センターなどとも緊密に連携をとり周産期医療サービスの提供と維持がなされております。

高知県も少子化の波は強く最新の高知県による報告では出生数は年間4,000人程度、当院では、そのうち10数%の分娩を担っております。少子化は悪いことばかりではなく、ABR法による新生児聴覚スクリーニング、エジンバラ産後うつ病問診票を用いた産後2週間検診、1ヶ月検診も助産師との協力のもと早期に取り入れ実施するなど機動性を重視しています。エジンバラ産後うつ病問診票を用いた産後2週間検診、1ヶ月検診は2021年1年間で約600名に実施されております。全国標準の方法で実施されており、今まで見落とされがちだった産後の精神的な不調への対応が、保健師などとも個人情報保護に配慮したルー

ルに基づき情報共有され早期の介入による支援形成がなされております。全国標準の方法に基づいているため分娩後心身に不調をきたして、他府県より実家へ戻ってきた方、逆に里帰り分娩をした後に現住所に帰られる方に関しても正しく情報共有がなされ継続的な支援ができる状況となっております。

2020年初頭から猛威を振るうコロナ感染に関しても感染流行初期から高知県及び他病院とも協力して対策をしております。感染を広げないための感染予防、ワクチン啓発はもちろん通院中の妊婦さんが感染疑いあるいは感染した場合でもスタッフを含めて手順の徹底、機器の準備をしており感染妊婦の管理について対応が行われております。

分娩後に関しては助産師主体で育児技術の習得はもちろん、バースコントロールなどの相談にも応じ、産後の育児環境の快適化などの産後ケアのお手伝いをしています。今後の少子化を睨み、より充実した対応が望まれると考えております。対外的にも“ピルにゃん”(<https://pillnyan.jp/>)などにも登録して周産期管理と同様に、妊娠はもとより、望まない妊娠などが起こらないために包括的性教育の情報発信もしております。

2021年4月より木下宏実、滝川稚也に加え、甲斐由佳、青木秀憲の2人のNew Powerを迎え安定した医療サービスの提供を心がけております。

認定看護師紹介



がん化学療法看護
認定看護師
福岡 美恵

私はがん化学療法看護認定看護師として活動をさせていただいている福岡美恵と申します。主に外来で勤務し、がん薬物療法ボトル交換研修やがん化学療法専門看護研修に携わっております。

がん化学療法看護分野における知識と技術の一部に、「がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理」があります。これらの内容をそれぞれの研修内で学習に盛り込み、看護スタッフへの周知を行い、病棟ラウンドで看護スタッフの投与管理の実践状況を確認し継続的に関わるようにしています。

近年、医療従事者が抗がん薬に曝露されていることが問題視されるようになってきました。私が研修などを通し継続的にスタッフに関わる理由は抗がん薬の安全な取り扱いを根拠に沿い理解実践することで投与管理時・それ以外の場面で抗がん薬の曝露を避けることにつながるからです。

医療従事者が抗がん薬の取り扱いに注意するのは少量でも長期曝露により発がん性、催奇形性、生殖毒性、臓器毒性、遺伝毒性（染色体異常、変異原性）の可能性が否定できないことにあります。2014年厚生労働省労働基準局安全衛生部より「発がん性等を有する化学物質を含有する抗がん剤等

に対するばく露防止対策について」の通知が発出されています。この中で、抗がん薬を取り扱う薬剤師や看護師等が意図せず曝露した場合に健康障害を発症する恐れがあること、必要な曝露防止対策が必要であるとし、安全キャビネット設置、閉鎖式接続器具等を活用、取り扱い時の个人防护具を徹底、取り扱いに係る作業手順を策定し関係者に周知徹底する等の曝露防止対策の取り組み促進が挙げられました。

以降2015年「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」が、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本がん看護学会の3学会合同で策定（最新版は「がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン2019年版 第2版」）されました。

この中で抗がん薬の曝露対策には防御器具の使用が重要であり、同様に調製や投与管理に関わる全員が正しい手技をとるなどのマニュアル整備や教育という組織管理的コントロールが重要であることもいわれています。今後も研修や病棟ラウンドを通じ、組織的な曝露対策の取り組みを推進していきたいと思っています。また副作用対策や疑問などございましたら、いつでも声をかけていただきたいと思います。



令和3年度つくし病棟 「成人・還暦を祝う会」



保育士
廣瀬 沙矢香

今年度は成人者2名、還暦者2名の利用者さんを対象に「成人・還暦を祝う会」の式典を療育訓練室にて実施しました。

昨年度に引き続き感染対策を行い、病棟別での実施に伴い二部形式での実施となり、式典後にゆっくりと参列者と語らう時間や写真撮影の場を設けることができず、とても残念でした。また、会場への参列者を最小限の人数で行い、ご家族にも当院の別室よりリモートで参加していただくなど、会場にて一緒

に参加していただくことができず、少し寂しくもありました。しかし、式典中は普段と違う厳かな雰囲気緊張気味の利用者さんも、参列者からの祝辞等にて自身のエピソードが紹介されると自然と笑顔が溢れていました。

最後には当院へ入所されてからの写真等で作成した「思い出ムービー」を鑑賞し、さまざまな出来事を思い返しながら心温まる式典となりました。



職員の異動

10月2日付～1月1日付の人事異動（常勤）

退職

▶ R3.10.27

看護師

大野 雛衣

▶ R3.12.1

ボイラー技士

片岡 廣明

▶ R3.12.31

看護師

看護師

看護師

武吉 和加

小野智加歩

竹田江里花

栄養管理室だより

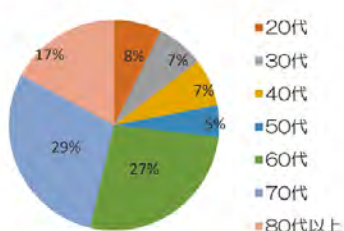
嗜好調査を実施しました



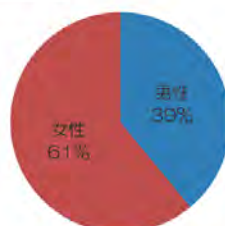
栄養管理室長代理
永野 由香里

当院では、入院中の患者様においしく病院食を召し上がっていただくために嗜好調査（お食事についてのアンケート）を定期的実施しております。

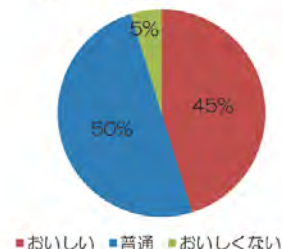
Q1.年齢層



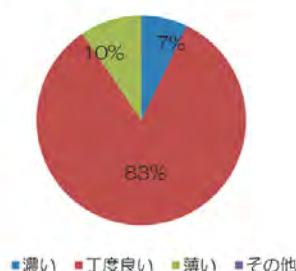
Q2.男女比



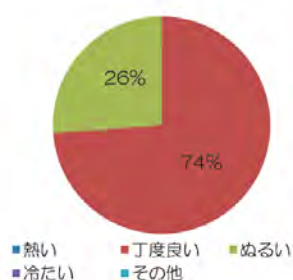
Q3.お米の味



Q4.お味噌汁（味付け）



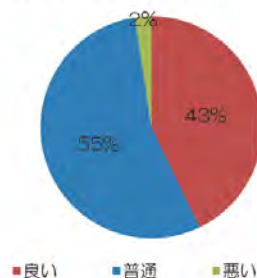
Q5.お味噌汁（温度）



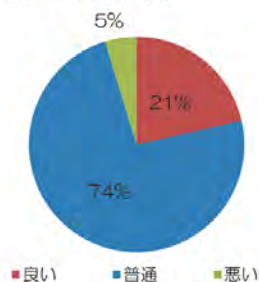
Q6.酢物（味付け）



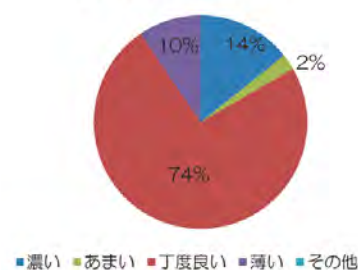
Q7.おかず（色彩）



Q8.おかず（食材）



Q9.おかず（味付け）



ご意見（良い点）

- ・量が丁度良い。
- ・いつも美味しいです。ご飯が楽しみです。
- ・ご飯やおかずが温かいのがありがたいです。
- ・入院生活では食べることが楽しみなので私にはとてもすばらしかったです。大変ですがこれからも頑張ってくださいね。ありがとうございました。
- ・朝食がパンに変更できてよかったです。

ご意見（改善してほしい点）

- ・おかずの量が多い。濃い味付けの方が食べやすい。
- ・視覚的に色がなく美味に見えない。料理の味が同じような感じ。酢物は丁度よいときもあるが薄くて食べられない時もある。魚が生臭い。
- ・ブロッコリー等の野菜類はもう少し生に近い方がよい。少し煮過ぎているように思う。
- ・麺類がもう少し多くてもよいと思う。老人向きの食事で残念でした。毎日煮物ばかりで飽きた。

今回の調査は令和3年8月30日～9月1日、対象は一般病棟に入院された常食と妊産婦食をお召し上がりの患者様となっています。病院食で対応可能な範囲ではありますが今後も患者様のご要望にお応えできるよう努めてまいります。お食事についてのご相談がありましたら管理栄養士までお知らせ下さい。

感染管理室だより

令和3年度 感染防止対策地域連携 病院相互評価の受審



感染管理室
河村 ひとみ

当院は感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算の施設基準を取得しています。施設基準要件には、他の感染防止対策加算1に係る届出を行っている保険医療機関と連携し、少なくとも年1回程度、当該加算に関して連携しているいずれかの保険医療機関に相互に赴いて感染防止対策に関する評価を行い、当該保険医療機関にその内容を報告すること、また、少なくとも年1回程度、当該加算に関連しているいずれかの保険医療機関より評価を受けていることとなっています。

高知県内では当院を含め10施設が加算1の施設であり、この10施設が連携し相互評価を実施しています。例年では、1施設に対して2施設が訪問し、書類の確認、院内ラウンドにより評価しています。昨年度からは新型コロナウイルス感染症対策として、1施設に対して1施設のみの訪問とすることで訪問人数を少なくし、訪問時間も例年より短縮するなど配慮し開催しています。今年度は、Webによる開催とした県内の施設もありましたが、当院は感染流行の落ち着いた時期に実際に訪問していただき実施することができました。

今年は、11月13日に高知赤十字病院のICTの

皆様に当院の評価を実施していただきました。当日のスケジュールは13時から書類確認を行い、その後現場視察を行いました。現場視察では主に新型コロナウイルスの対策について重点的に確認していただきました。また、ディスカッションの時間を設け、各施設の「COVID-19 疑い患者の対応」や取り組みについて報告し合い情報共有を行いました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、悩みながら手探りで対策を行っていましたが、他施設の状況を教えてもらい、実際に当院の状況を確認していただくうえでご意見をいただくことができ、大変参考になりました。また、外部の皆様からのご意見をいただくことで、現場の職員や私たちICTも刺激になりました。現場視察でご指摘いただいた点については、すぐに工夫し改善に取り組んでいます。すぐに改善が難しい事項については、長期的な計画として検討を重ねています。

今後も、病院相互評価を通して、訪問する側、訪問を受ける側が共に高め合いながら、感染防止対策のさらなる充実に向け取り組んでいきたいと思っています。



医療安全管理室だより

ヒューマンエラーには
システムで対応医療安全管理係長
山本 三恵

医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。人間は誰でも間違えるという特性を持っています。しかし間違いは防ぐことができます。そのために、間違いにくいシステムを構築することが重要とされています。

ヒューマンエラーとは人間側の要因と環境の要因から引き起こされた人間の行動であり、その行動がある許容範囲から外れたものと言われています。この人間の行動とはどうやって起こされるのかというと、心理学者コフカによると「人は自分の理解した世界（心理的空間）に基づいて行動を決定している」と言われています。この考え方では、エラーを起こした本人は目に見える物を見たいように見て判断し、それが正しいと思って行動しているということです。

先日、私は、交通事故を起こすところでした。交差点で赤信号で止まっていたところ、なんとなく周りを見回していたら、信号機が青になっているのを見て、発進しなきゃと判断し、アクセルを踏みました。すると突然、車が『ピー!!』と大きな音を発し、急ブレーキが自動的

にかかりました。一瞬何が起こったのかわかりませんでした。ゆっくり考え、周りを見てみると、自分が見た信号機は交差している車線の信号機だったのです。もちろん自分の車線の信号機は赤のままでした。自動ブレーキがかからなかったら、前の車に衝突するところでした。車の性能に驚きと感謝を感じました。

このように、日常でも、思い違いによる事故はたくさんあります。人間だから、思い違いをしてしまうのです。その思い違いをしづらくする、もしくは、思い違いをしても事故につながらないような、システム作りが重要です。例えば、車の性能を向上する、交差側の信号機の色を見えにくくするなどでしょう。

医療現場における事故は、患者さんに与える不利益はもちろんですが、事故を起こした職員もダメージを受けます。そのため、できる限り事故を起こしにくくする、もしくは、起こっても重大な事故になりにくくするなどの取り組みが必要です。それには、事故の原因を調査し、改善策の第一選択はシステムの見直しから検討することが大切です。

原因は 何？
どうして
間違った？

看護学校だより

ウィルセレモニーを開催しました

令和3年10月29日(金)に

第59期生のウィルセレモニーが行われました。

看護学校
水口 沙紀

2年生がコサージュを手作りしてくれ、胸につけてくれました

ウィルセレモニー委員が中心になって考えた装飾



ウィルセレモニーを終えての学生の感想の一部

- ウィルセレモニーに憧れがあり、行うことを楽しみにしていた。そのためにウィル委員に入り、セレモニーに向けて練習や準備を進めていた。しかし、新型コロナウイルスの影響で縮小が余儀なくされ、家族や在校生など多くの人々に見守られることはできず、本来の式典とは大きく異なる方法で行うことに残念な気持ちもありました。しかし、先生たちのおかげで、自分達でナイチンゲールから灯火をもらい誓いの言葉を述べることで本当にうれしかった。私が一番難しかったのは、59期生の誓いの言葉を決めることだった。全員で話すことの難しさや、まとめることの大変さを知り、どうしたら全員で協力してできるかを考えて、良い誓いの言葉になるように働きかけた。何度も何度も59期生で話し合いを重ね、全員で決めたからこそ、出来上がった誓いの言葉は私たちにピッタリのもので、この言葉を大切にしていこうと心から思うことができた。
- 学校長の話していた「創造力」を大切にしたいと思った。教科書通りではない、患者さんに合わせた看護を考えていきたい。
- 受け持たせていただく患者さんに「今度、看護学生が実習に来るので、協力していただけませんか」と聞いていることを初めて知り、たくさんの方に協力、応援していただいていることを知りました。59期生の誓いの言葉にあるように実習させていただけることに感謝し、自分の関わったすべての患者さんや家族との出会いを大切にしたいと思った。

第59期生 誓いの言葉

私たち59期生は、看護の道を志すものとしてここに誓います。
命を重んじ、実習させて頂けることに感謝し、自己研鑽します。
一人の人間として患者さんと真摯に向き合い、互いを尊重する姿勢を大切にします。
患者さんの良き理解者となるように優しさと思いやりの心を磨き続けます。
私たちは自己の心身の健康に気をつけながら、目的と根拠を大切に、安心感のある援助を行います。



学校長、看護部長さんからお言葉をいただきました

式典終了後、3年生からもエールを頂きました



地域医療連携室だより



看護師長
森本 純子

10月から地域医療連携室に配置換えになりました森本です。

異動して間もない中で感じたことは、「地域に信頼される病院になる」という病院の目標の最前線で実働している部署であるということです。前方支援・後方支援に関わる看護師、ソーシャルワーカー、事務それぞれの対応が病院の評価につながるという自覚をもって業務にあたる必要があると感じました。また、院外連携をスムーズにするためには院内連携が重要であると思いました。

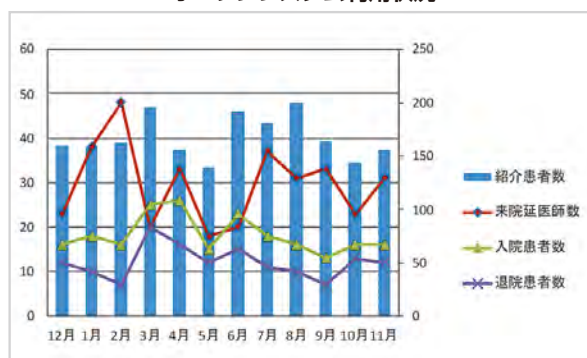
12月はコロナ感染予防対策の対応レベルがさがり、面会禁止から制限レベルに緩和したこともあり、今年度はじめて連携病院への挨拶回りをさせていただきました。

した。従来の訪問では事務と看護で行くことが多かったようですが、今回の訪問は病院長、副院長、各診療科医長にもそれぞれ同行していただき当院の強みを紹介することができました。訪問させていただいた病院からは幸いにも紹介したらすぐに受けてくれる、待たされる感じはないと仰っていただきました。その言葉に甘んじることなく、迅速かつスムーズに紹介患者様を受け入れられるように取り組んでいきたいと思います。

まだまだ不慣れでご迷惑をお掛けすると思いますが、皆様のご支援をいただきながら、患者さまや連携病院から国立にしてよかったと思っていただけるよう、地域医療連携室の運営に邁進してまいります。

高知病院地域連携等概況

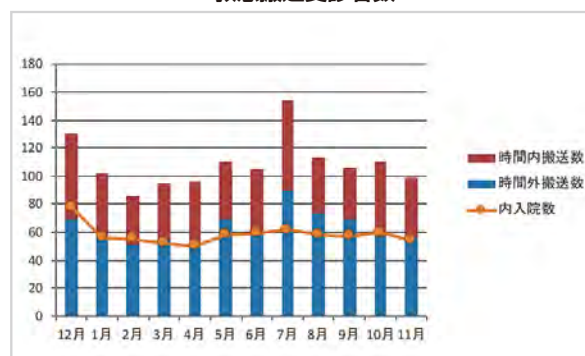
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



外来診療担当医表

(令和4年1月4日現在)

■受付時間 8:00～11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1診 ⑫		小松 直樹	井上 修志	篠原・竹内(隔週)	
	特別外来 ⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神経内科		⑬	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)			
呼吸器内科 アレルギー科	午前 1診 ⑧	岡野 義夫	竹内 栄治	畠山 暢生	竹内 栄治	門田 直樹
	2診 ⑥・⑫		國重 道大	近藤 圭大	町田 久典	畠山 暢生
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器内科	午前 ⑨	林 広茂	池田 敬洋	井上 修志	高橋 拓	池田 敬洋
循環器内科	午前 ⑦	山崎 隆志	西村 直己	伊藤 いづみ (第2・4水曜)	山崎 隆志	
	午後 ⑦			伊藤 いづみ (第2・4水曜) 受付16:00まで	ペースメーカー (第2木曜)	
リウマチ科		⑩	松森 昭憲 (糖尿病も診察)			松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1診 ①	大石 尚文			小倉 英郎	大石 尚文
	2診 ②	佐藤 哲也	濱田 朋弥	佐藤 哲也	佐藤 哲也	高橋 芳夫
	3診 ③	井上 和男	澤井 孝典	小倉由紀子	井上 和男	
	午後 専門外来	慢性疾患 アレルギー	神経・アレルギー 循環器(第2火曜 医大循環器)	乳児健診	アレルギー NICUフォローアップ	慢性疾患 乳児健診
	予防接種	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前 ⑤・⑥	東島 潤	福山 充俊 (クーポンがん検診)	山崎 誠司	江藤 祥平 (クーポンがん検診)	金本 真美 (肝臓・胆道・脾臓外来)
	午後 専門外来		福山 充俊 (乳腺外来)		江藤 祥平	
呼吸器外科	午前 ⑧		先山 正二		先山 正二	先山 正二(予約制)
	⑦		日野 弘之 診察開始 9:30～		日野 弘之	
乳腺科	午前 ⑤	本田 純子 (クーポンがん検診)		本田 純子 (クーポンがん検診)		
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで(クーポンがん検診)		本田 純子 受付15:30まで(クーポンがん検診)
整形外科	午前 ①	福田 昇司(予約制)		善成 晴彦	福田 昇司	合田有一郎
	②	善成 晴彦				
	午後 ②	骨粗鬆症 13:00～15:00(予約制)			田村 竜也 (予約制)	
脳神経外科	午前 1診 ⑧			非常勤 診察時間 9:00～11:00(予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
	午後					非常勤 受付16:00まで
皮膚科	午前 ⑬	高橋 綾	中島 里穂	高橋 綾	中島 里穂	高橋 綾
泌尿器科	午前 1診 ⑨	島本 力 診察開始 9:00～	葺石 陽亮 診察開始 9:00～	医大医師 診察開始 9:00～		島本 力 診察開始 9:00～
	2診 ⑦					葺石 陽亮 診察開始 10:00～
	午後		葺石 陽亮	医大医師		
産科	午前 ③⑤	滝川 稚也	滝川 稚也	甲斐 由佳 1ヶ月検診	木下 宏実	青木 秀憲
	午後					青木 秀憲
婦人科	午前 ③①	木下 宏実 クーポンがん検診	甲斐 由佳 クーポンがん検診	木下 宏実 クーポンがん検診	滝川 稚也 クーポンがん検診	甲斐 由佳 クーポンがん検診
	午後					思春期外来(予約制)
眼科	午前 ②③	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前 ⑬	中野・武田	中野・武田	中野・武田	中野・武田	中野・武田
放射線科		塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文

※ 市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日 外科外来・乳腺科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外来までお問い合わせください。

※ 当日の受付は午前11:00までとなっております。